

第41回広島市植物公園植物写真コンテスト入賞作品

賞	画題	被写体の種名	名前
最優秀賞	仮面	コチョウラン	大戸 富士恵
特選	エイリアン	ラン	青木 リツ
	遊泳	サクラ	迫 早智子
	華麗	スイレン	管原 正人
	ぼたり	ヒガンバナ	西村 明美
準特選	暁球	サボテン	川井 二美代
	植物公園の神秘	フィリソシンカ	田上 俊彦
	陽光	アジサイ	寺西 奈穂美
	歌舞吼	ダリア	平田 良二
	ほほ笑み	バラ	山縣 直幸
入選	梅雨の彩り	アジサイ	浅沼 美枝
	バラの水滴	バラ	岩下 等
	白く輝くダイヤ	ダリア	市場 徳男
	早春の光	ユキワリイチゲ	植永 佳子
	2人のX'mas	花と光のページェント	大島 寛
	レッツダンス	ヤマボウシ	木下 則利
	優美	バラ	賀中 義隆
	桃色叶息	バラ	川井 二美代
	春一番	ヤブツバキ	倉見 千恵子
	幸せなら手を…	サボテン	高取 一巳
	花売店チューリップ	チューリップ	田上 俊彦
	色彩美	F. プロクムベス	寺西 考史
	春の陽射しの中で	ツツジ	寺西 奈穂美
	楽しい遠足	八重桜	中谷 俊治
	満開の尾花	ススキ	藤井 勉
	貴品ある飛翔	サギソウ	向井 景昭
	華やぎ	ロベリア	
	桜咲く	サクラ	山田 泰司
	黒い花びら	黒法師(アエオニウム)	
	押競饅頭	アメリカテマリシモツケ	渡邊 高市
佳作	花と光のページェント2016	花と光のページェント	植永 佳子
	黄昏	チューリップ	江崎 誠司
	純真	ダリア	江崎 利奈
	集合写真	サラサドウダン	木下 則利
	フェイス	ラン	小原 三津枝
	花と蝶	コスモス	賀中 春花
	幼い絆	小花壇と子供	賀中 義隆
	blue	アジサイ	川本 真二
	ポン!	ゲンノショウコ	桐田 華恵
	静寂	ヤマボウシ	倉見 千恵子
	アサギマダラ旅の途中に	フジバカマ	高田 良治
	℃℃℃(ドドド〜!!)	竹の子	寺西 考史
	晩春のクイーン	コダチダリア	長沼 裕子
	手入れが大事	ハナショウブ	中谷 俊治
	太陽の恵み	ヒマワリ	西村 義雄
	クリスタルの流れ	カスケードの滝	
	変わらぬ信頼	フウロソウ	羽多野 恵雄
	一眼の清涼	ハナショウブ	原田 保徳
	雅	スイレン	
	情熱	ヒガンバナ	脇田 泰子

賞	画題	被写体の種名	名前
スナップ賞	楽しい夏休み	さらさら川	阿十 縹
	愛のナイトロード	花と光のページェント	大島 寛
	お花畑散策	ハナショウブ	賀中 春花
	雪化粧	大花壇	川崎 修司
	成長を願って	サクラ	河村 篤司
	きれいに咲いたね	ハナショウブ	西村 明美
	お花見	枝垂れ桜	福間 久仁子
	天辺で女子会	ザイルクライミング	堀江 久子
	秋の好日	イチヨウ	宮本 成侍
	カーブ坊や	カーブアトラクション	吉田 一志
カレンダー賞	フェイス(佳作と重複)	ラン	小原 三津枝
	こんにちは	カランコエ	桐田 華恵
	三姉妹	ダリア	倉見 千恵子
	贈り物	ハナミズキ	田上 俊彦
	おしゃべりしよう!	フクシア	西村 明美
	アジサイの屋形	アジサイ	村上 百合子
	秋のスイーツカフェ	コスモス	森川 賀根雄

総 評

応募いただいた多くの皆様方の、人生で一番癒される花々の作品に対する熱意に圧倒されました。清楚で可憐な花々の自然美を愛する情熱を感じながら、時間をかけて拝見させていただきました。四季折々の色彩美を気候条件を感じながら競い合う花々、蕾から色付き開花へ、写真愛好家の皆さんは、進化を遂げるレンズ越しですが、見逃さず視点を変えながら日々眼が離せず、鋭い観察眼で撮り込み、一枚の映像として作者の意図を記録・伝えてくれ、心休まる楽しいひと時です。

優しく癒される可憐な花と思えぬ鋭い形相描写の造形接写作品「仮面」。着眼点はもとより、作品としての鋭い仕上げに感銘しました。ピント深度・主役・脇役・背景処理も大切なポイントですが、題名も単純な花の名ではなく、「ぼたり」、「華麗」、「遊泳」、「エイリアン」など連想させる画題がつけられ、楽しい連想へと作者の思いが伝わり、作品を鑑賞させていただきました。

園内スナップ系の入選作品別枠コーナーがありますが、3作品が「花:入選」枠に食い込み、親子同伴での大温室の1日も早い完成が待たれ、来年の応募作品に期待が膨らみます。

(二科会写真部会員・全日本写真連盟関西本部委員 秋田隆司)

撮影に挑む時何を頭の中に描いてカメラを向けますか?最初に構図を考えますか?

画面を構成していく上で色彩と形は印象度を高めるための重要な要素ですが、あわせて主役(主題)・脇役(副題)などの配置とそれぞれの配分を重要です。色や形は撮影者の意思の及ばないものですが、被写体を画面の中でどう配置するかなど構図の決定は撮影者の自由です。

お仕着せの構図法に左右されず、自分が見つけた主題を効果的に表現することです。現場で効果的に表現することが撮影者のオリジナルな構図です。人の真似をする必要はありません。いろいろな撮影現場で経験したことが蓄積され、主題の発見、構図の発想、構想力となって身に付きます。

応募された写真から一番最初に見るのは構図です。良いと思った写真を見た時、その写真をモノクロにしても色に誤魔化されることもなく良いと思えるかどうかです。

最優秀賞は意表を突いたものでした。蘭の花ですが、花の咲き方からすれば上下が逆さまです。撮った写真を上下逆さまにしたものではなく、逆さまの花を撮ったものでしょう。悩まされた作品です。特選に選ばれた4点、準特選の5点はいずれも甲乙つけがたい素晴らしい作品です。

大温室が閉館中でやはり蘭が少なかったのですが、それでもそれぞれの花の旬の時期に植物園を訪れ撮影された努力は凄と思います。植物園の人たちが慈しみを込めて咲かせた花を感動を持って撮影されたものは人の心を動かすに違いありません。

(芸北写真塾主宰・紺野 昇)
(敬称略)